

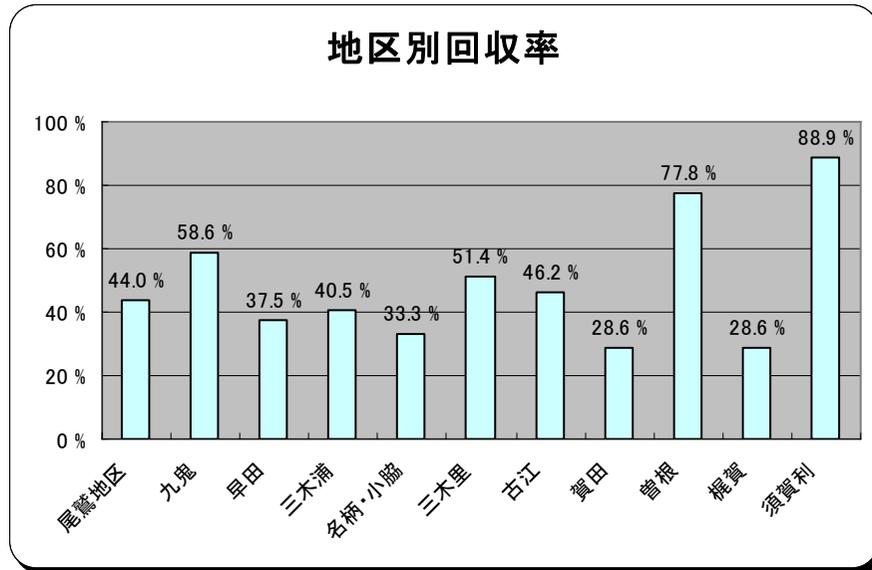
尾鷲市公共交通に関するアンケート集計結果

- 調査実施時期 : 平成22年1月18日～2月5日
- 調査対象者 : 市内在住の15歳以上(無作為抽出)
- 標本数 : 1,000人
- 調査方法 : 郵送法

1. 地区別のアンケート回収数等

標本数:1,000通 回収数:446通(回収率:44.6%)

◆アンケートの回収率は、全体で44.6%であった。須賀利地区の回収率は、88.9%と最も高かった。

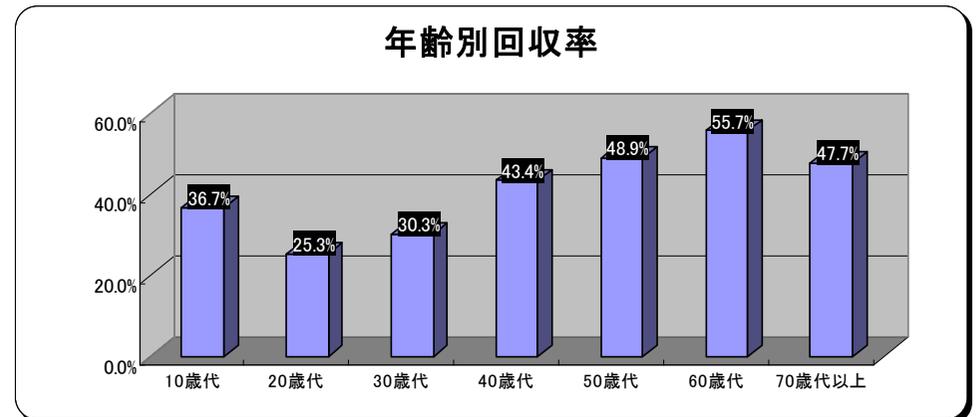
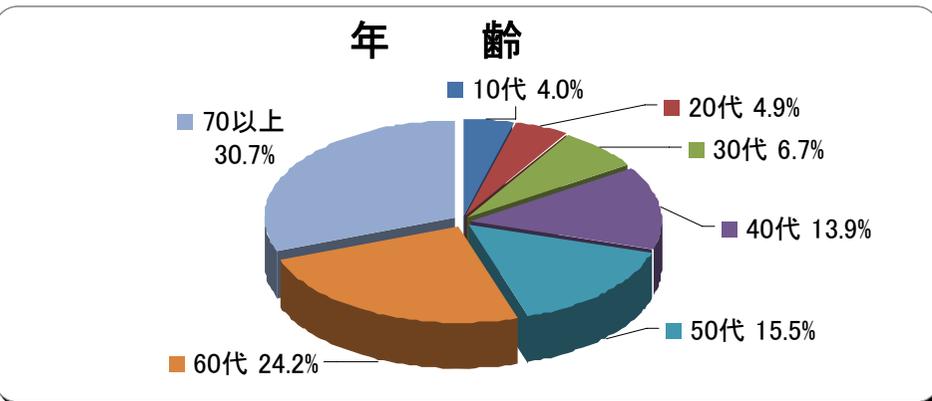


●地区別回収率表

地区	標本数	回収数	回収率
尾鷲地区	797人	351人	44.0%
九鬼	29人	17人	58.6%
早田	8人	3人	37.5%
三木浦	37人	15人	40.5%
名柄・小脇	6人	2人	33.3%
三木里	37人	19人	51.4%
古江	26人	12人	46.2%
賀田	35人	10人	28.6%
曾根	9人	7人	77.8%
梶賀	7人	2人	28.6%
須賀利	9人	8人	88.9%
合計	1,000人	446人	44.6%

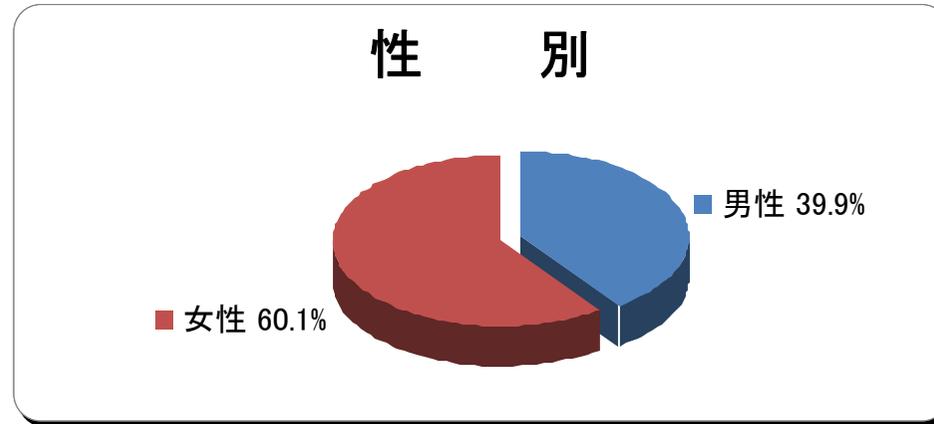
2. アンケート回答者の年齢

◆回答者の年齢構成比は、「70歳代以上」が30.7%と最も多く、次いで、「60歳代」の24.2%、「50歳代」の15.5%となっている。また、年齢別回収率を見ても、50歳代～70歳代以上の回収率が高く、バスに関する関心の高さがうかがえる。



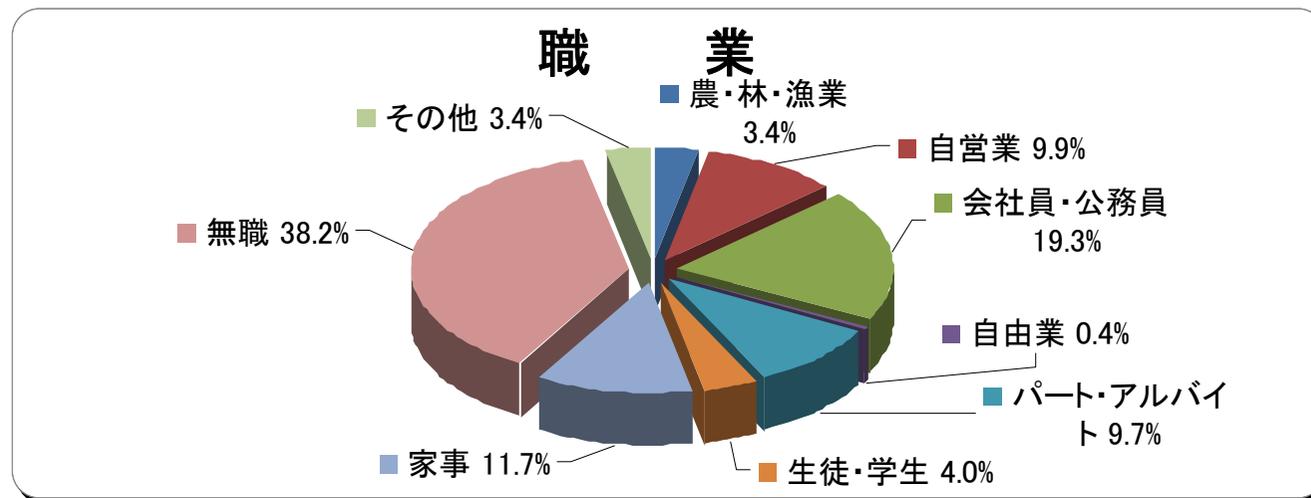
3. アンケート回答者の性別

◆回答者の性別は、「男性」39.9%、「女性」60.2%の構成比となっている。



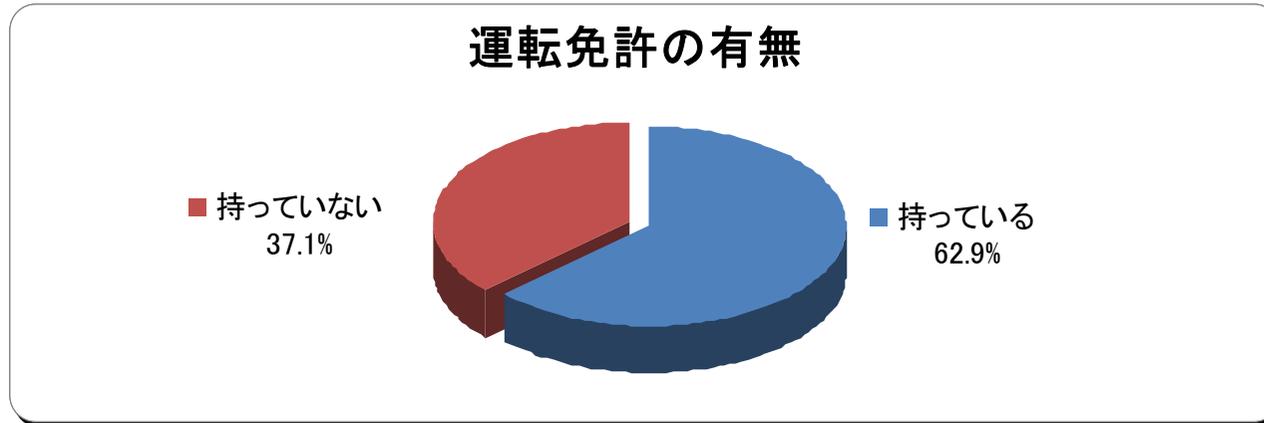
4. アンケート回答者の職業

◆回答者の54.2%が60歳以上ということもあり、「無職」が38.2%と最も高い。次いで「会社員・公務員」19.3%、「パート・アルバイト」9.7%の構成比となっている。第1次産業は、3.4%と平成17年国勢調査の産業別就業者数と同様、低い数値となっている。



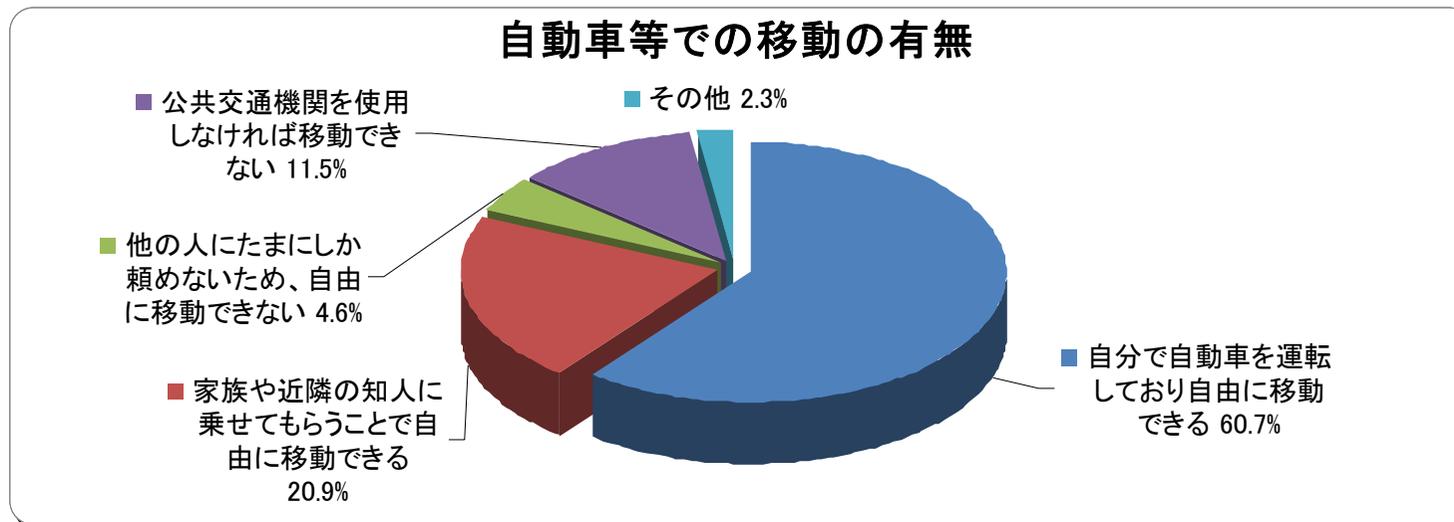
5. 自動車運転免許の保有について

◆免許保有者が回答者の62.9%を占めており、平成22年1月末現在の尾鷲市における免許保有率61.85%（三重県の運転免許保有情勢より）とほぼ同数値となっている。



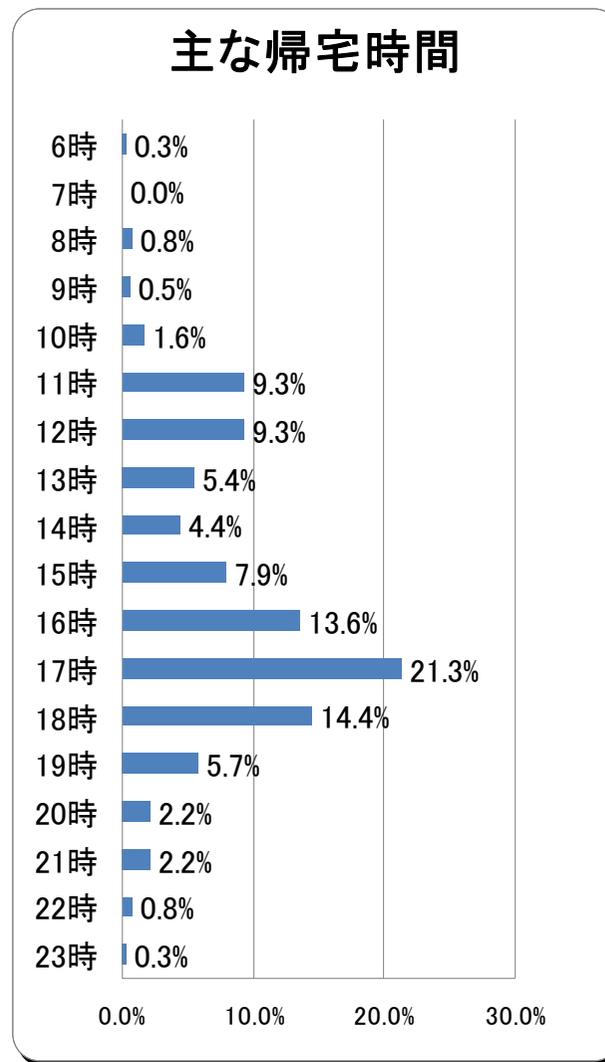
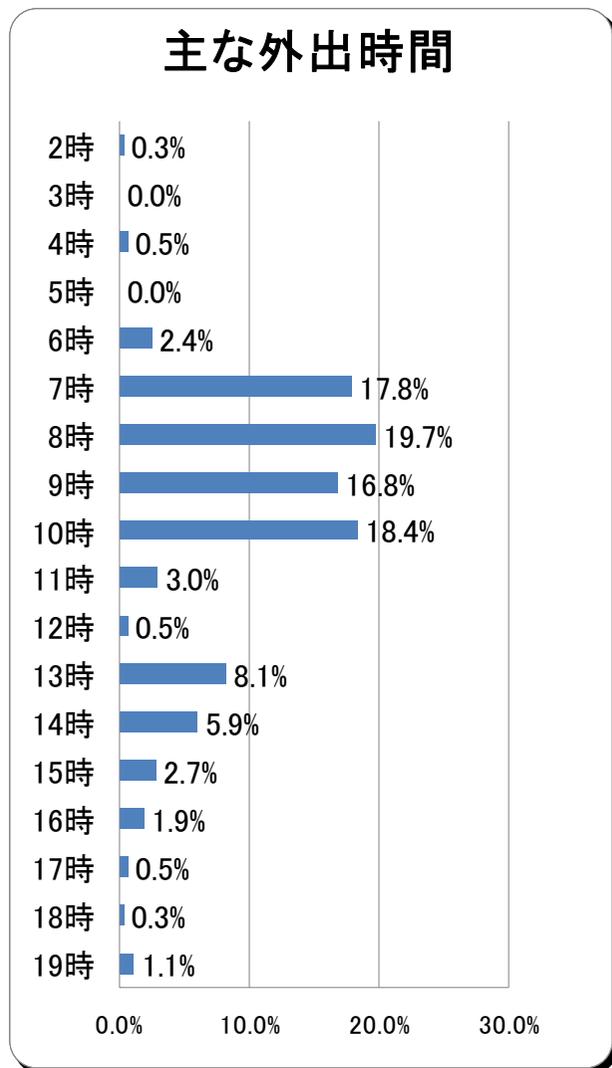
6. 自動車等による移動について

◆「自分で自動車を運転しており自由に移動できる」が60.7%と最も多く、自動車運転免許の保有率と同程度の数値となっている。一方、自動車等で自由に移動できない、いわゆる交通弱者と言われる人が全体の16.1%を占めていることがわかる。「その他」では、要介護者等の移送を行う「福祉輸送サービス」の利用により移動が可能といった意見が見られた。



7. 主な外出時間と帰宅時間

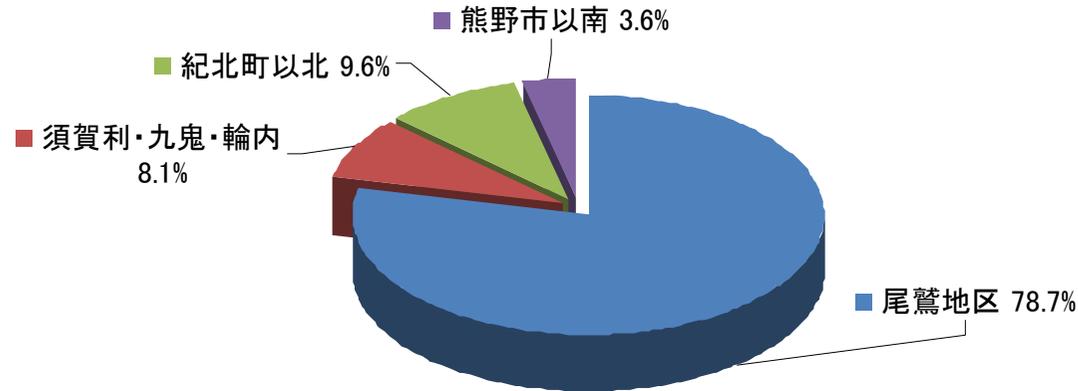
- ◆ 通勤時間帯にあたる【外出時間「7時」「8時」】、【帰宅時間「16時」「17時」「18時」】が多いほか、ふれあいバス八鬼山・ハラソ線の2便目にあたる時間帯【外出時間「9時」「10時」】、【帰宅時間「11時」「12時」】が多い。



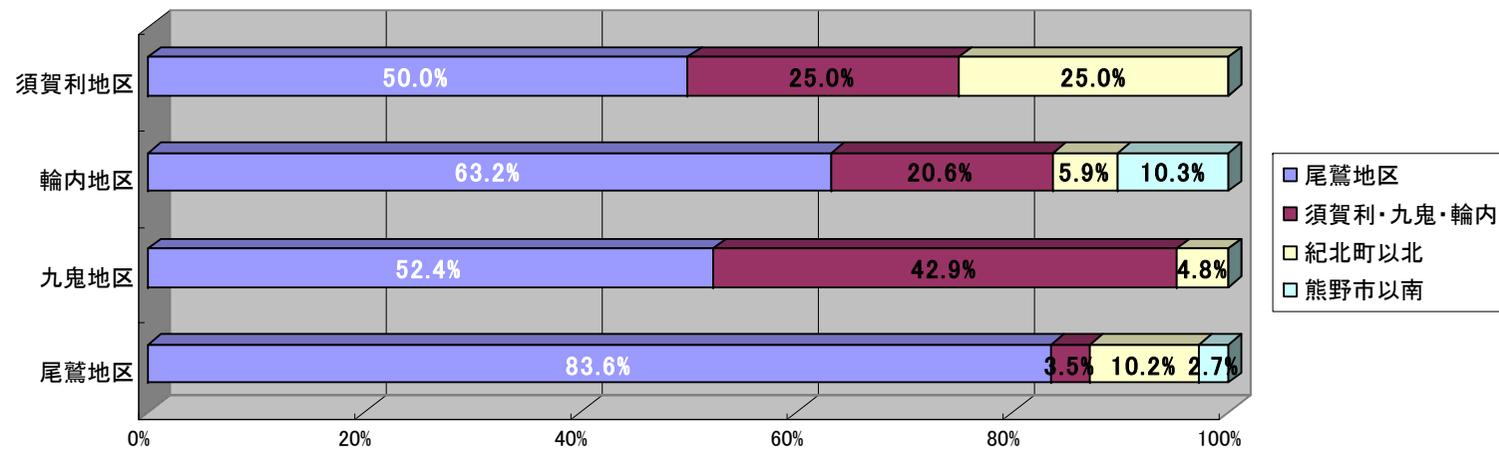
8. 外出する際の主な目的地

- ◆ 主な目的地としては、「尾鷲地区」が全体の約8割を占める。地区別においても全体集計と同様、「尾鷲地区」が最も多い一方、須賀利地区は紀北町と隣接しているため、「紀北町以北」が25.0%と他地区と比較すると多くなっている。また、須賀利、九鬼地区では、「熊野市以南」と答えた人はいなかった。

外出する際の主な目的地

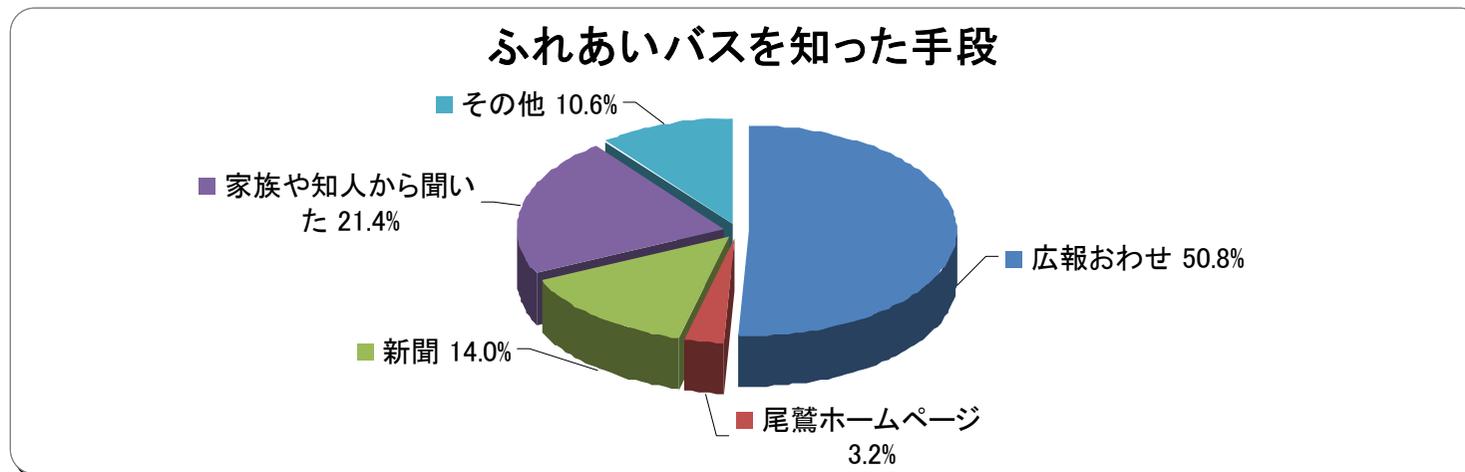
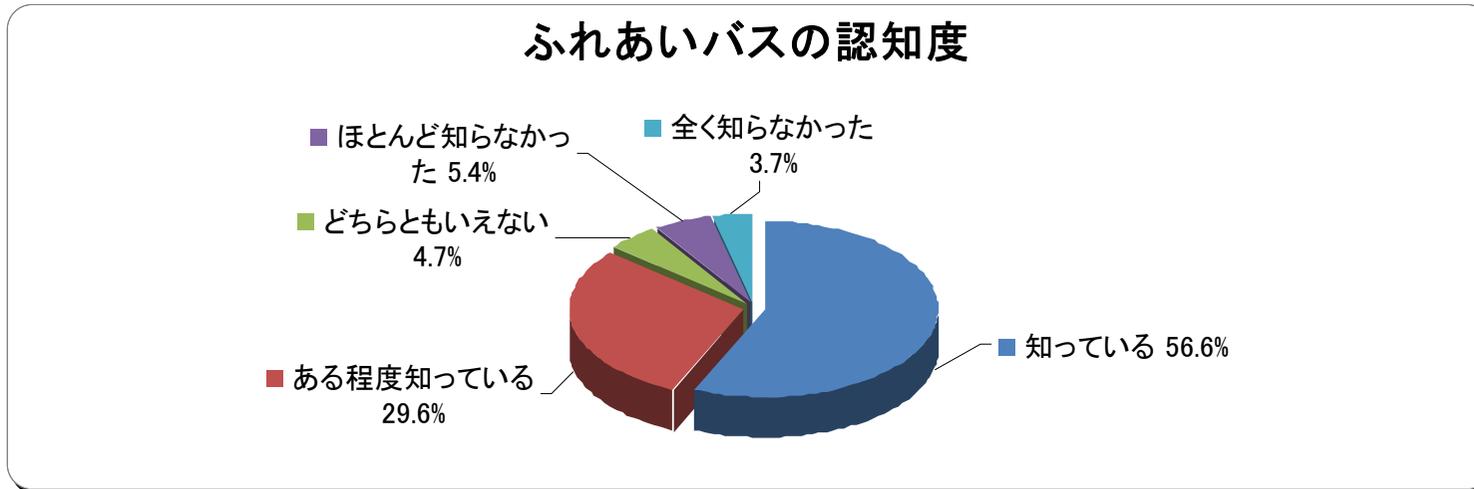


外出する際の主な目的地(地区別)



9. ふれあいバスの認知度

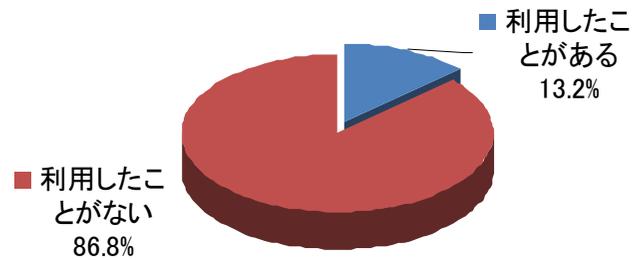
◆ ふれあいバスの実証運行について、「知っている（56.6%）」、「ある程度知っている。（29.6%）」と答えた方が、全体の86.2%を占めており、ふれあいバスの認知度の高さがうかがえる。また、「どのような手段でふれあいバスを知ったか」の設問に対し、「広報おわせ」が約50%を占め、ふれあいバスの利用啓発などの一環として「広報おわせ」に継続的に掲載したことの効果が見られた。



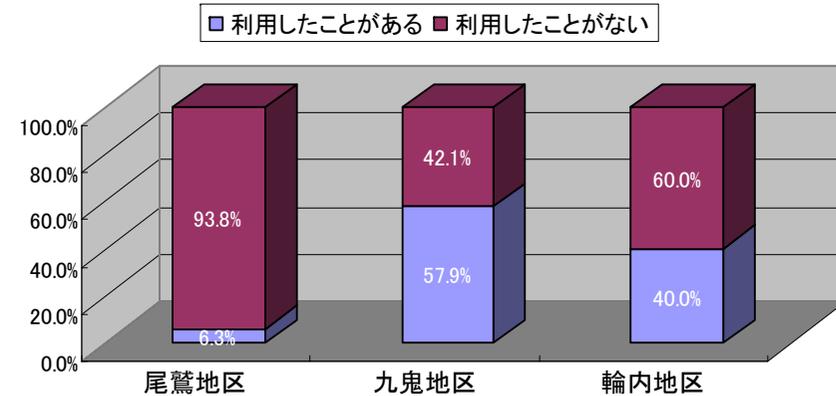
10. ふれあいバスの利用について

◆ ふれあいバスの利用状況では、「利用したことがない」が86.8%を占めている。一方、地区別の利用率に見ると、九鬼地区（九鬼・早田）や輪内地区（梶賀～三木浦）は高いが尾鷲地区が極端に低い。

ふれあいバスの利用状況



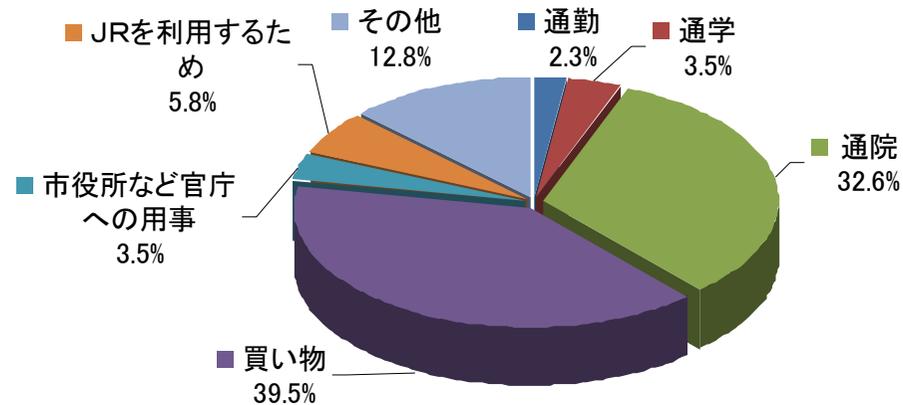
ふれあいバスの地区別利用状況



11. ふれあいバスの利用目的

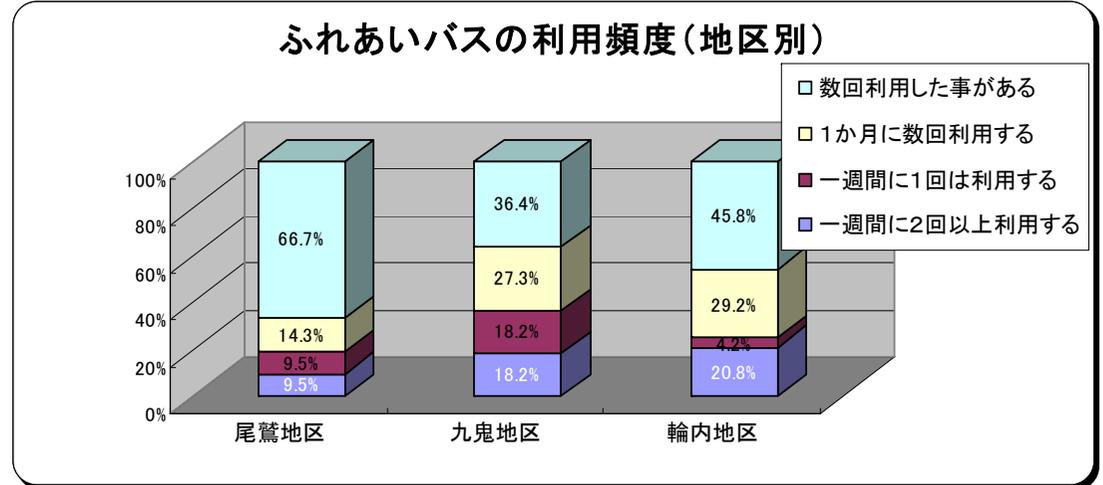
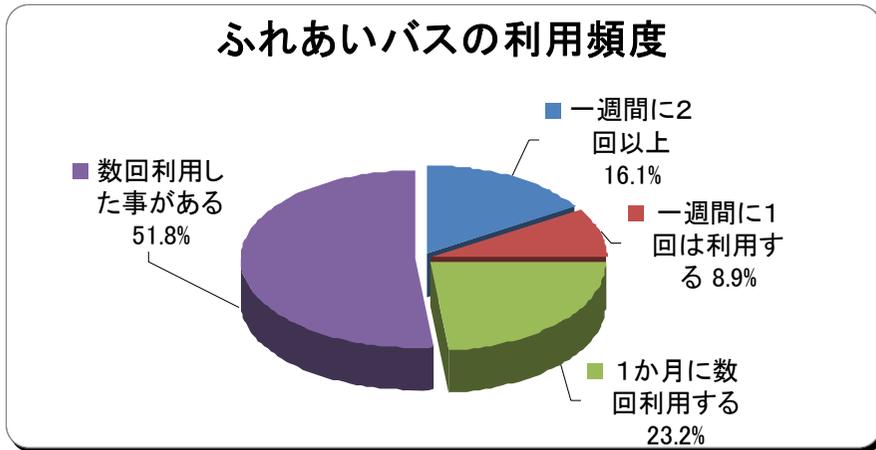
◆ ふれあいバスの利用目的は、「買い物」が39.5%と最も高く、次いで、「通院」が32.6%となっており、平成20年に行ったアンケートと比較すると「買い物」の割合が増加している。(H20アンケート結果:通院41.5%、買い物29.7%)

ふれあいバスの利用目的



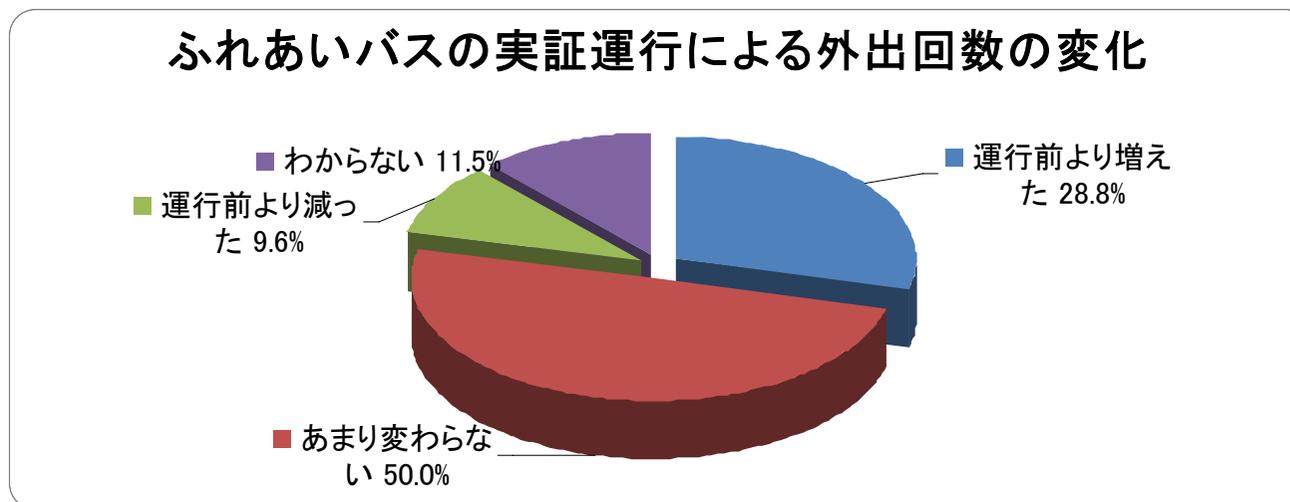
12. ふれあいバスの利用頻度

◆ ふれあいバスの利用頻度は、「数回利用した事がある」が51.8%と最も高い。地区別に見ると九鬼地区、輪内地区では、尾鷲地区と比較し、「一週間に2回以上利用する」が多く、「八鬼山線」「ハラソ線」の利用率の高さがうかがえる。



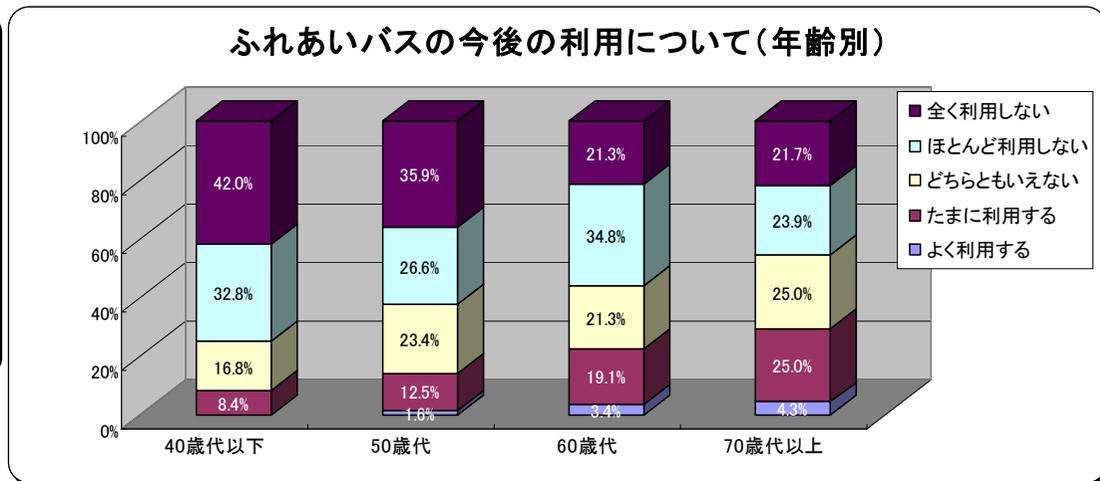
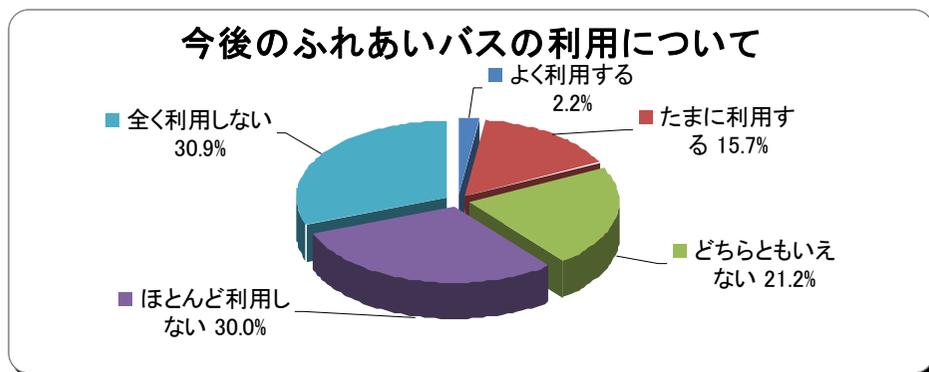
13. ふれあいバスの実証運行による外出回数の変化

◆ ふれあいバスの実証運行による外出回数について、「運行前より増えた」が約30%を占め、移動手段として一定の効果が表れている。一方、最も少ない意見ではあるものの「運行前より減った」と答えた方が9.6%いることから、今後、要因等の分析ともにその改善が求められる。



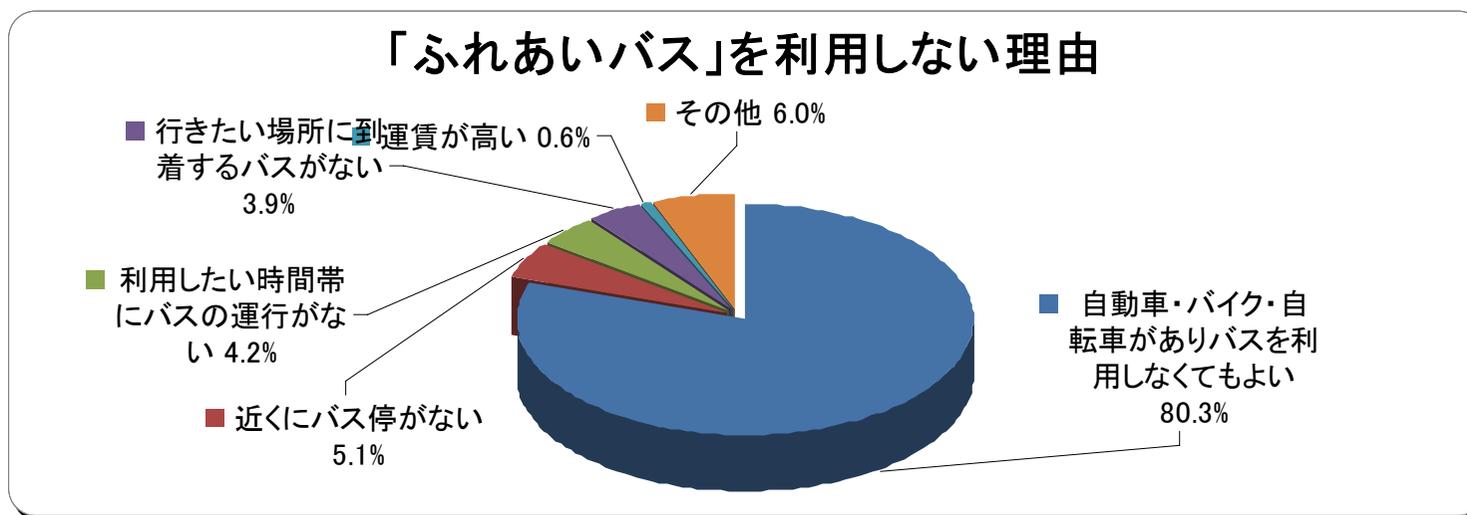
14. 今後のふれあいバスの利用について

◆ これまでふれあいバスを「利用したことがない」と答えた人を対象として、今後のふれあいバスの利用について、伺ったところ、「全く利用しない」「ほとんど利用しない」と答えた人が60.9%を占めた。年齢別に見ると年齢が高くなるにつれ、「よく利用する」「たまに利用する」と答えた人の割合が増加していることがわかる。



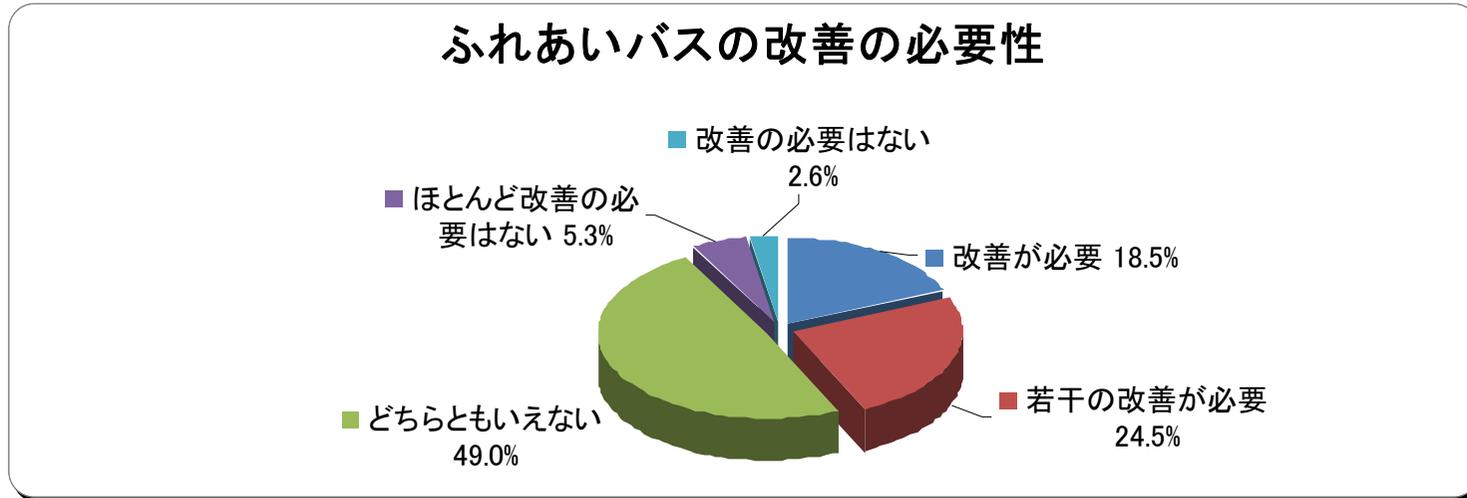
15. ふれあいバスを利用しない理由について

◆ ふれあいバスを利用しない理由としては、自動車・バイク等により移動を行っている人が全体の約80%を占めており、モータリゼーションの進展によるバス等の公共交通の利用率の減少が顕著に表れている。



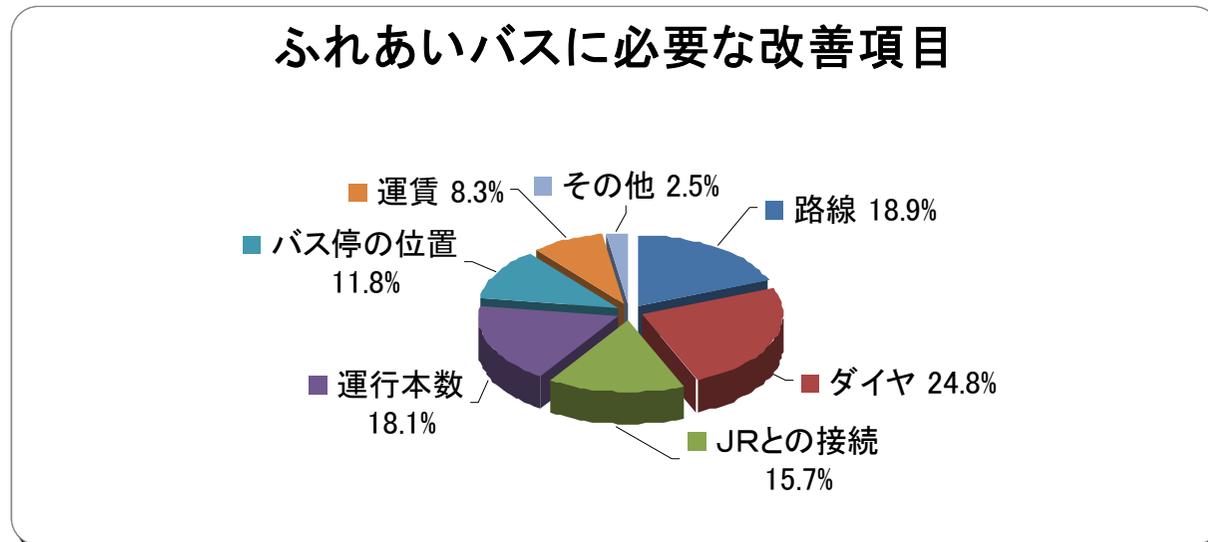
16. ふれあいバスの改善の必要性について

◆ ふれあいバスの改善の必要性について、「改善が必要」「若干の改善が必要」と感じている人が43%と多く、逆に「改善の必要はない」「ほとんど改善の必要はない」が7.9%と少ない。半数近くの人がふれあいバスの改善が必要と感じていることがわかる。



17. ふれあいバスに必要な改善項目について

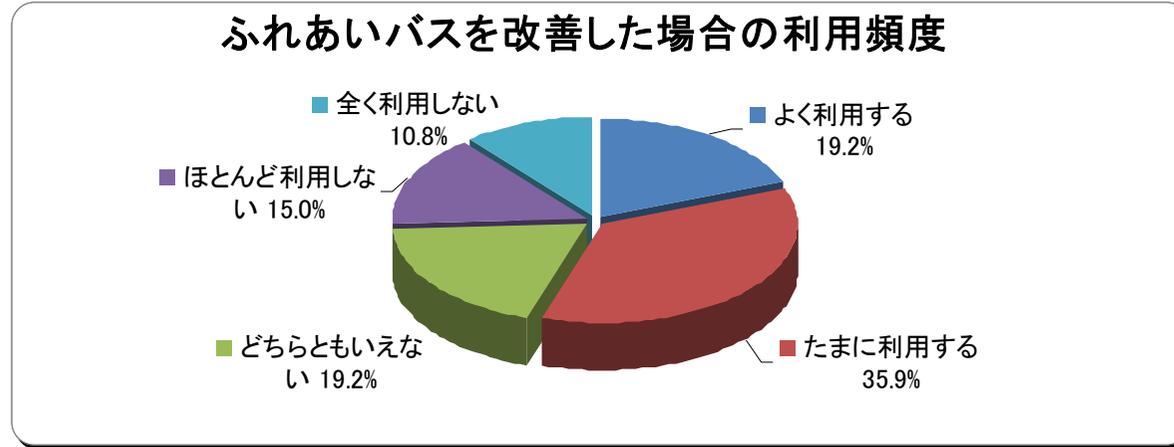
◆ 「ふれあいバスにどのような改善が必要か」の設問に対し、「ダイヤ」と答えた人が24.8%と最も多く、続いて「路線」(18.9%)、運行本数(18.1%)となっている。その他の意見は以下のとおり。



その他意見
<ul style="list-style-type: none"> ・ 低床バスの導入 ・ バスカードの導入 ・ わかりやすい路線・時刻表の作成 ・ バス停へのベンチの設置 など

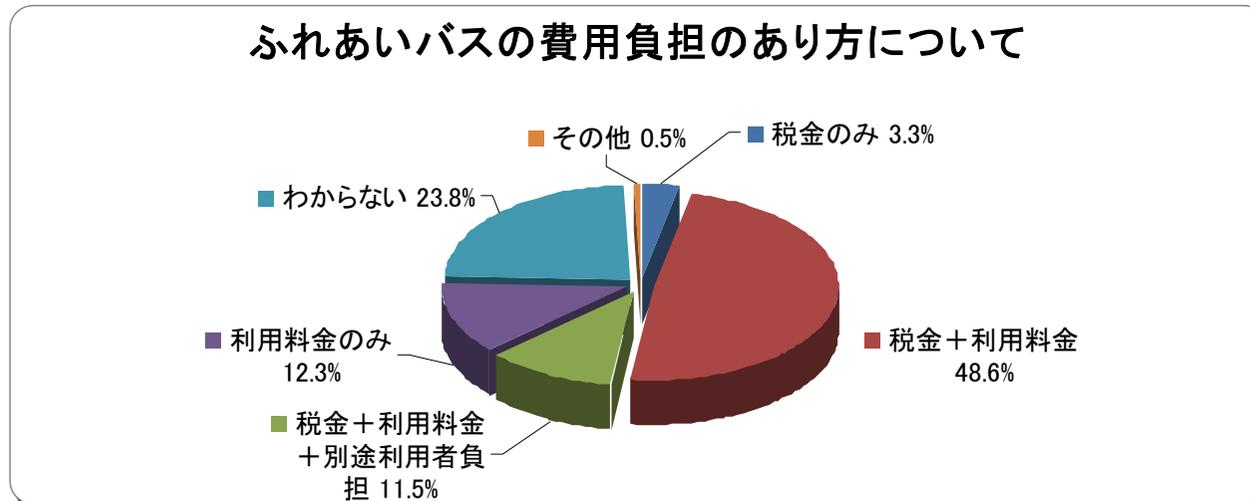
18. ふれあいバスを改善した場合の利用頻度について

- ◆ ふれあいバスに改善が必要な項目（『16. ふれあいバスの改善項目について』参照）を改善した場合の利用について、「よく利用する」「たまに利用する」と答えた人が55.1%を占めている。一方、25.8%の人は、改善を行っても「利用しない」「ほとんど利用しない」と答えており、ふれあいバスの必要性を感じていないことがわかる。



19. ふれあいバスの費用負担のあり方について

- ◆ ふれあいバスの運行にかかる費用負担のあり方について、現行のふれあいバスの負担方式と同様の「税金+利用料金」と答えた人が48.6%と最も多い。税金や利用料金のほか、地域負担などを求める「別途利用者負担」や「利用料金のみ」が10%程度で、「税金のみ」の運行は3.3%と最も少なく、受益者負担の必要性を感じている人が72.4%と大半を占めている。



20. 自由意見(抜粋)

<p>運行全般</p>	<ul style="list-style-type: none"> ① 運行を続けてほしい ② 将来利用する。運転ができなくなるので運行は続けてほしい ③ 尾鷲市街地のバスは必要ない ④ バスは公費の無駄使いである ⑤ 利用する人が少なく、空席が目立つ状態の運行がよくある少ないのならやめた方がよい ⑥ 利用状況を考えると、必要な方に対しての乗合バスを予約制に ⑦ どこでも乗降できるようにしてほしい ⑧ 梶賀～運行するようになって病院、買い物に本当に便利になった 	<p>利用料金</p>	<ul style="list-style-type: none"> ① 八鬼山線が高くなったので乗れない(倍になった) ② 九鬼～尾鷲間往復800円は高い ③ 九鬼駅から市場まで、歩いて行くかわりにバスに乗りたいが高い ④ 子供の通学の定期代を安くしてほしい ⑤ 病院に費用がかかるのでバスが気軽に乗車できるような料金にしてほしい ⑥ どこから乗っても同じ料金にしてほしい ⑦ 高齢者の方に負担にならないような料金にしてほしい ⑧ 高齢利用者の年齢制限を設け無料にする ⑨ 高齢者の方の便利タクシー助成金(タクシー活用)の導入 ⑩ バスカードが利用できるようにしてほしい
<p>路線・ダイヤ等</p>	<p>【全体意見】</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 運行本数を増やしてほしい <p>【他の交通機関との連絡】</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 早田地区はJRの連絡が悪くなった。7時も9時も待ち時間が長い。 ② 松阪方面への移動が不便 ③ JR南紀特急との接続を検討してほしい ④ ハラソ線と尾鷲地区との連絡強化 <p>【尾鷲地区】</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 病院・スーパー中心のルートにしてほしい ② 光が丘・倉の谷・泉・天満・須賀利のバス運行 ③ 新田の墓地までの運行してほしい(お盆・彼岸だけでも) ④ 光が丘、下りのバス停を検討してほしい ⑤ 尾鷲の左回り便数を増やしてほしい <p>【九鬼・輪内地区】</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 以前バスがよかった ② JR運行時間以外の運行にしてほしい ③ 1:30頃に尾鷲を出発する便がほしい <p>【須賀利地区】</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 須賀利地区運行を紀北町と合同で行い、白浦、島勝を経由してほしい 	<p>収支</p>	<ul style="list-style-type: none"> ① 税金のみでは市の負担が多すぎる。市民も甘えてばかりでは成り立たないと思う ② ふれあいバスが本当に必要なのか。白紙から考えるべき ③ 介護や病院送迎を利用している人もいる。税金で市の負担を増やさないようにしてほしい ④ 市営での運行ははたしてどうなのか合理的で効率の良い運行をしてほしい ⑤ 利用者負担を増やし税金投入は最小限にする
		<p>バス停</p>	<ul style="list-style-type: none"> ① バス停を増やしてほしい ② バス停にイスを置いてほしい ③ バス停に屋根をつけてほしい ④ バス停に自転車置き場を
		<p>その他</p>	<ul style="list-style-type: none"> ① かわいらしい絵のバス。バスを見ると心温まる ② 乗務員さんが対応がよい ③ バスの乗降が困難。低床バス等の導入を検討してほしい ④ 利用料金、ルートわからない。わかるよう表示してほしい ⑤ 他県から来たときなどわからないので、転入時に利用方法や時刻表を配布する ⑥ ベビーカーを乗せることが出来るか表示してほしい

